

高松地区ワークショップ

地域の現状(特徴)と課題	参加者の意見	役割
【1】教育・文化について		
◇地域のルーツや良さをを知るための機会が減少してきている。	＜地域の良さを知り、語り継ぐための取組み＞	
	①歴史文化専門員や市史編纂専門員を積極的に活用し、地域の宝を掘り起こす活動や機会を地域全体に広げるとともに、子どもたちへ語り継ぐためにも、地域の歴史を見せる工夫(映像や資料など)が必要。	協働
	②公民館活動に、地域の名所旧跡めぐりをする「小さな旅」的な催しを取り入れる。	地域
◇地域の中で自然に親しめる良さをもっと知ってもらい、自然と親しむ子どもを育てる。	＜遊びや交流の場としての利活用＞	
	①いこいの森林間歩道から平野山の愛宕神社に抜ける道などを活用し、地域の自然公園や遊歩道を巡るトレイルランニング等の企画や、気軽に自然に親しめる場所として新たな情報発信をしていく。	協働
	②身近な田園風景の中で親子が安全に楽しめるよう、高松堰遊歩道や寒河江川に川遊びのできる水辺なども必要。整備は行政に、活用の充実は地域で。	協働
【2】保健・福祉・医療について		
◇高齢化に伴い、健康や医療面で不安がある。	＜高齢化対策・健康増進への取組み＞	
	①公民館活動を利用し、自主活動による健康増進運動を地域で実践できるようリーダーを養成していく。健康づくりの活動はポイント制にし特典を設けるなど、住民の健康に対する関心と疾病予防への意識向上を図る。	協働
	②公民館の開放や空き家を活用し、「お茶のみサロン」のような、お互いの顔が見える機会を増やす。健康状態の確認や情報収集ができ、さらには会話をすることでボケ防止につながる。	地域
	③②に加え子ども見守り的な機能も持たせれば、高齢者が子どもたちとのふれあいや交流で、地域コミュニティの中で生きがいや地域とのつながりを感じることが可能ではないか。雇用の機会が生まれる可能性もある。	地域
	④自分一人で買い物に行けない場合は、誘いあって一緒に行けるような地域のつながりを作っていく。デマンドタクシーの支援も、より充実してほしい。	地域協働
	⑤市全体のバランスから見ても地域に介護施設が不足しており、施設の誘致が必要。市立病院と連携した地域診療所の機能などもあればより安心。	行政
◇小学校児童数の急激な減少が気がかりである。	＜子育て支援等の取組み＞	
	①地域の児童は、可能な限り地元の保育所に入所できるよう配慮してほしい。	行政
	②子どもの遊び場の整備や地域全体で子どもたちの見守り体制がとれるよう強化充実を図り、市外からの子育て世代転入者・定住者の増加を目指す。	協働
【3】農業・商工業・建設について		
◇地域の特産品をもっと活用し地域の魅力を発信できないか。	＜地区の特産物を活用した取組み＞	
	①谷沢うめを使った加工品・料理等のコンテストを行うなど、全国の人から高松地域を知ってもらい、さくらんぼ以外の農産物についても積極的なPRを行う。	協働
	②農産物だけでなく、高松の食材を使った加工食品を売り出したい。紅芋紫芋のフライドポテト、地元牛乳のソフトクリーム、谷沢うめの梅酒製造、梅味ソフトクリーム、梅肉エキス(梅露)などなど・・・。	協働
	③既に少人数のグループで工夫し楽しみながら取り組んでいる事例もあり、こうしたグループの活動を広く知ってもらうことや、活動への支援が必要ではないか。将来的に事業化(企業・JA等とも連携)できれば雇用にもつながる。	協働
◇農業後継者不足や農地の利活用の問題が心配である。	＜農業の人材確保や農業の魅力づくりへの取組み＞	
	①さくらんぼ生産は人手が必要。後継者のいない農業経営者への支援や協力体制などの組織づくりが必要。空き家に宿泊して農家に通うなど、空き家を活用した人手の確保も考えられる。	協働
	②耕作放棄地を増やさないため、田畑の貸し出しを促進する。	地域
	③体験型農業を地元農家で受け入れ、地域全体で農業に興味を持つ人々を支援していきたい。また、地域の農産物を主力としながら、花づくりなど周年的な新たな作物への支援も充実させ将来的な就農へ繋げる必要がある。	協働

地域の現状(特徴)と課題	参加者の意見	役割
◇高松駅周辺を賑わいのある交流拠点とすることはできないか。	<慈恩寺観光やチェリーランド等とリンクした取組み>	
	①慈恩寺の最寄り駅であることをもっと活かし、観光PRのために地域で協力できることはしていくべき。(観光協会とも連携し、道案内のボランティアや慈恩寺までの経路に「休み処」を地域で設け、慈恩寺みやげ品の販売も行う。)	協働
	②駅前から慈恩寺までの場所が一目でわかるような工夫(案内板の設置や統一化)と、歩行者専用の旧慈恩寺橋をもっと人の渡る魅力ある遊歩道とする。	行政
	③レンタサイクルは慈恩寺のイベントと関連して期間限定で実施されているが、慈恩寺以外への利用もできるようにする。さくらんぼの時期など、レンタサイクルを利用して果樹園を回ったり、高松地区のフォトラリー(見本写真と同じ風景等の写真を撮影する等)を企画してみる。	協働
	④産直市場を設置し、地元産の野菜や果物、手作り産品も販売する。	地域協働
	⑤チェリーランドは知名度が高く河川敷もきれいである。活用方法を工夫して整備すれば地域の活性化と集客力の向上が見込まれる。	協働
	⑥地域住民による「田代亭・谷口がっこそば」のような、農家が自分たちで作った作物を使った食事等を提供する農家レストラン的なもの(食の駅)ができれば、慈恩寺との相乗効果が生まれる。	地域協働
◇地域の人が地元で雇用されてないので、次世代が地域を離れる傾向にあり心配である。	<寒河江中央工業団地への企業誘致・雇用などへの取組み>	
	①大学等で学んだ専門知識を活かせる企業が地元寒河江にもあることを、学生へもっとPRすることも必要ではないか。求人と求職のアンバランスもあるように思えるので、工業団地への企業誘致は業種等も検討する必要がある。	協働
	②他県での大手企業のリストラなどのニュースを目にすることもある。県出身技術者のUターン雇用など、転入促進に向けた積極的な情報提供をしていくべきだと思う。	行政
③中学生を対象に寒河江市の企業等による自社のPRや見学会、またハローワーク等によるキャリア教育など実施し、地域企業の魅力を感じてもらう機会をつくっていく。	協働	
[4]生活・安全・安心について		
◇若者世代の地元離れが進んでおり、人口減少や消防団活動の今後のことが気がかりである。	<交通の利便性を生かした住環境整備等への取組み>	
	①高松駅南側に住宅団地を造成し、若者や子育て世代の定住者を呼び込みたい。道路等の交通アクセスの良さ、災害の少なさ、土地の安さ、工業団地等をPRし、Uターンはもちろん都会からのIターン者を受け入れていく。	協働
	②住宅団地造成にあたっては、住宅地と田畑のすみわけをうまくしてほしい。(実際に東根市などでは住宅地と農地が混在し、消毒ができないなどの弊害も発生しているらしい。)	協働
	③高松地区は、国道(R112・R287)が交差しアクセスが良い。寒河江・西村山地域の中心に位置するメリットを活かし、山形市防災センターのような防災の拠点となる施設を誘致することはできないか。	協働
	<消防団活動について>	
①高松地区内の一部では、若者世代の流出で新入団員が確保できないところも出始めている。消防団の再編成や定員の見直しなども必要である。	行政	
②消防団活動と自主防災組織の連携等によるお互いの負担軽減や役割等について検討すべきである。	地域	
◇災害に強い生活道路整備と冬期間の除雪体制の強化を望みたい。	<生活道路の整備と除雪の充実について>	
	①地区内には道幅が狭く緊急車両が入れないところも多く、側溝蓋がけ等によるきめ細やかな道路整備について、今後も計画的な実施が必要。	協働
②冬期間は積雪量も多い地域であり、通学路の安全確保のため、こまめな除雪を今後ともお願いしたい。	協働	
[5]その他		
◇公共施設(学校や公民館等)を有効に活用することができないか。	<公民館・学校等の活用について>	
	①寒河江高校農業校舎の体育館やグラウンドを有効に活用できないか、県にも要望していく必要がある。利用可能なら、地区住民の交流の場としての活用など、地域でも活用方法を検討したい。	協働
②今後施設(公民館・小学校等)の更新や大規模改修が必要な場合は、空き教室の活用など複合的な機能を持たせるなどの検討も必要である。	行政	